

「（仮称）桑名新花火大会」 について

桑名新花火に関する概要

1. 花火大会開催に関する現状と課題

- ・花火大会は、自治体の観光資源であり、地元の要望も強い。
- ・観覧客の未秩序（場所取り、ゴミ放置、違法駐車など）が問題視され、それらの対策に多額な負担が強いられる。
- ・台風、ゲリラ豪雨といった悪天候などで中止になった場合の損害費用の負担がかさむなど、増加する費用に対応することが難しくなっている。
- ・自治体にとって事故などのリスクも大きいので、警備費用の負担も増大する。

2. 花火大会の新たな展開

- ・近年、こうした状況から、民間主体で有料花火大会が増えてきた。
 - ・名古屋市で開催した「名港水上芸術花火」は、コロナ禍以前において、収容人員いっぱいの16,000人、協賛社は70社以上、協賛金は2,200万円以上という実績を残した。
- 民間が主催することで自治体の負担が軽減され、様々なリスクを回避でき、集客による経済効果が現れる。

3. 新たな花火大会の概要

- ・ユニバーサル ミュージックの誇る大人気アーティストやレーベルとのコラボレーションを行い、約60分の全編を通して音楽とシンクロした花火を打ち上げる、花火ファンのみならず音楽ファンにも訴求する。
- ・オフィシャル花火としてアーティストに公認された花火大会となるので、全国のアーティストのファンに開催地区をアピールすることができる。

4. 開催の目的

① 市民レクリエーションの創出

地域の一大イベントとするため、地元の住民や企業の方に中心となっていただき、地元関係者が中心となった応援団体を組織し、地域経済活性化の一助となるようにする。

② 賑わいの創出

新しいコンテンツによって、地域の活性化とイメージアップを行い、若い世代への魅力アピールに貢献

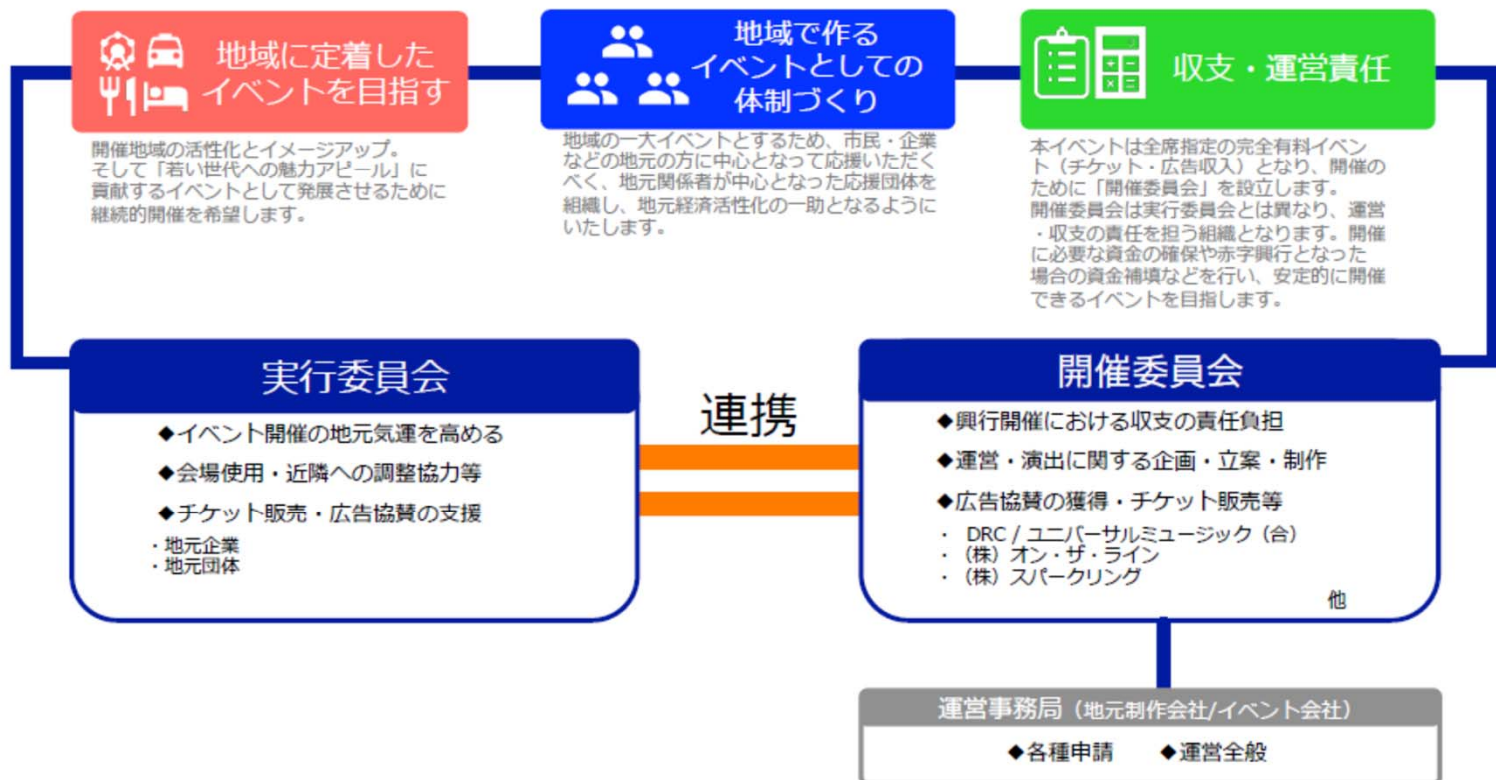
③ 社会への貢献

地域の現状に即し、善意団体へ興行の売り上げの一部を寄附する。

また、児童養護施設の子ども達を招待し、楽しい時間をすごしてもらうことにより、夢や希望をはぐくみ未来につながるようにする。

実施体制および取り組み（案）

実施体制



開催地への取り組み

事前周知の徹底

- ・ 開催地区長、地域住民への挨拶（主旨説明）
- ・ 周辺住民自治会への協力を要請し、連携をしてイベントの開催準備を行う。
- ・ 新聞折込、ポスター掲載、ポスティングなどを行い開催案内の事前周知を行う。

開催地住民からの苦情対応

- ・ 開催委員会本部内に近隣対策用の専用電話を設置し、電話対応スタッフを配置。（イベント開催日の2日前～を想定。）
- ・ 警察署、近隣住宅、近隣施設に専用電話の電話番号を記載した事前案内の掲出を行う。

イベント開催当日の運営

- ・ 最寄りの公共交通機関の駅から会場までの来場者導線に警備員を配置し、交通整理を行う。
- ・ 会場周辺、駅から会場までの来場者導線の清掃を行う。（開催日の夜間、翌日早朝の2回実施）
- ・ 会場周辺、駅から会場までの来場者導線にゴミステーションを設置し係員を配置。
- ・ 音量の測定

チケットの優先購入

- ・ イベントオフィシャルプレイガイドにて開催地住民へ優先的にチケットを発売

開催地とのコラボレーション

- ・ 現地自治体と相談の上で決定

イベント終了後

- ・ 御礼のご挨拶
- ・ 反省会の実施（開催地からの意見聴取）

実施計画（案）

